

平成18年3月吉日



道府県医師会長 殿
13大都市医師会長 殿
日医代議員 殿
日医予備代議員 殿
郡市区医師会長 殿

唐澤祥人日本医師会会長候補選挙対策本部

本部長 倉品 克明
事務局長 鈴木 聡男

唐澤祥人日本医師会会長候補

「第二弾・一刻の猶予もゆるされない」の送付について

拝啓 春暖の候、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

唐澤祥人の立候補にありましては、格別のご厚情を賜り厚く御礼を申し上げます。

さて、この度日医の現状をご理解いただくため「第二弾・一刻の猶予もゆるされない」を公表いたしました。

事態は深刻でございます。どうか一刻も猶予出来ないことをご理解のうえ国民医療を守るため唐澤祥人候補に絶大なるご支援をお願い申し上げます。

おって、先日はマニフェスト等を重複してご送付申し上げお手数をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。敬具

日本医師会会長に 立候補を決意した理由

2年前の日医会長選挙によって新執行部が発足し、その活動に大いに期待を寄せ、私も理事の一員として、また東京都医師会会長として精一杯活動を支えて参りました。

しかしその後の検証により、理事に対しても正しい情報が全く示されず、執行部の一連の医政活動は会長とごく一部の役員が主導してきたものであることが明らかになりました。

から さわ よし ひと
唐澤祥人 東京都医師会会長



第2弾!

一刻の猶予も
ゆるさされない。

日本医師会 植松会長に お聞きしたい。

—— 郵政問題における日医の失態 ——

あなたは昨年、郵政国会で、参議院議員の武見敬三、西島英利の両氏に、郵政法案に反対票を投ずるように指示しました。法案に反対すれば、政府自民党が日医にどういう対応をするかは、火を見るより明らかです。

結果は子供にもわかることなのに、どういう判断に基づいて無謀な指示をしたのか。

私たちは執行部から言い訳らしきものは聞きましたが、納得のいく説明は一度も聞いていません。

説明責任を果たせない執行部は、執行部の名に値するでしょうか。

この件で唯一の救いは、武見、西島の両議員が指示には従わず、常識に従って法案に賛成票を投じ、国会が解散されて総選挙になると、両氏が自民党の候補者の応援に、全国を飛び回ったことです。なぜそうしたかといえ、政権政党を敵にすれば日医と日医が支える日本の医療制度を守ることは出来ない、と考えたからでしょう。

ともあれ、執行部が政権政党を敵に回した結果、何が起きたかは、だれの目にも明らかです。

—— 中医協における影響力低下 ——

中医協における主導権と影響力を、完全に失ってしまいました。診療報酬が史上最大の3.16%引き下げられることになったのは、その象徴的なことです。

この数字が決まったのは、昨年の12月18日の日曜日でした。政府首脳が集まった席で、「日医の意見も聞いておく方がいい」と、どなたかが発言し、日医に電話をした。ところが、電話に出る者がいなかったというではありませんか。

日曜日とはいえ、こんな大切な日、しかも前々からわかっていた日に電話番号を置いていなかったのです。坪井前会長時代には考えられなかったことです。これで、現執行部はどうして「努力をした」と言えるのでしょうか。いかなる努力をしたのでしょうか。

—— 日医総研の空洞化 ——

現執行部のもう1つの大きな過ちは、日医総研を事実上、解体してしまった事です。

説明の必要はないと思いますが、日医総研は坪井前会長時代に、厚

労省の机上の空論や計算に従ってはい日本の医療制度が破壊されと考え、優秀な頭脳を集めて設けられました。医療現場の声をしっかり聞き、海外に研究員を派遣し、具体的、かつ緻密な政策提言をおこなってきました。厚労省にとっては目の上のコブ、“天敵”といってもよい存在でした。

ところが現執行部は不可解なことに、総研の年間予算を半減どころかそれ以下にしてしまったのです。その結果、優秀な頭脳が流出しスタッフは半減してしまったのです。頭脳を失えばthink tankはsink tankにならざるを得ません。有効な政策提言はできません。日医が無力化するわけです。

この責任はだれがどうとるというのでしょうか。

日医は今、明らかに沈没しようとしています。若い優秀なドクターが日医という船に乗りたがらなくなっています。乗っていても頼りにならない。危ないというので、次々に降りようとしています。

それも、無理からぬことです。

—— いつまでもボールを待ってられない ——

日医の代議員会で、植松会長は公然と、「向こうから来るボールを待つしかない」と発言された。

「日本医師会の発言力は低下した」という新聞報道を、会長自らが認めたのです。そういう組織をだれが信用するのでしょうか。

現体制になってからの日医について、厚労省の幹部の中には「日医が何を考えているか全くわからない」という声があります。

こういう声があることさえ知らないとするのであれば、何をかいわんやでしょう。

私たちは、来るボールを待っているわけにはいきません。「療養病床6割削減案」でわかるように、ボールを待っていれば、この国の医療制度は破壊されます。

1枚の健康保険証があれば、だれでも、いつでも、どこでも必要な医療を受けることが出来る……国民の貴重な財産といってよいこの制度が、執行部の無策のせいで危機に瀕している。私たちは、座して死を待つわけにはいきません。もはや、一刻の猶予も許されないのです。

平成18年3月吉日

東京都医師会会長

から さわ よし ひと
唐澤 祥人



唐澤祥人会長と柳澤伯夫自民党税制調査会長が消費税について意見交換。
(平成18年3月)

から さわ よし ひと

唐澤祥人 日本医師会会長候補 選挙対策本部

丸の内事務所

唐澤祥人 日本医師会会長候補選挙対策本部 丸の内事務所

開設期間 2月8日(水)～4月2日(日)

住 所 〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-6-3 丸の内ホテル901号室
(ホテルフロントは7階になっております。7階フロントにお申しつけの上、901号室へご来駕ください。)
JR東京駅丸の内北口より徒歩1分

電 話 03-3217-1111 (代表) (客室901)

携帯電話 090-7703-1181

F A X 03-3217-1287 (直通)

E-mail karasawa-sentai@muse.ocn.ne.jp

お茶の水事務所

唐澤祥人 日本医師会会長候補選挙対策本部 お茶の水事務所

開設期間 2月2日(木)～4月2日(日)

住 所 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-5 東京都医師会館内502号室

電 話 03-5283-6758 (直通)

携帯電話 090-2758-1864

F A X 03-3294-8522 (直通)

E-mail karasawa-sentai@muse.ocn.ne.jp